

台湾のコンビニに足を踏み入れると、どこからか独特な香りが漂ってきます。

初めて入ったときは「何の匂いだろう？」と不思議に思いましたが、やがてそれが「八角（スターアニス）」の香りだと気づきました。香りを辿っていくと、そこにあったのは茶色いスープで煮込まれた卵。「茶葉蛋」と書かれていました。

八角は、日本ではあまり馴染みのない香辛料です。物珍しさから茶葉蛋を買って食べてみたものの、味そのものは素朴で、特筆するほどではありませんでした。それでも、日本のコンビニならホットスナックが並んでいるような場所に、茶色い煮卵が売られている、その文化の違いが面白く、最初のうちはコンビニに入るたびに気になっていました。

台湾は外食文化が盛んだと、留学前から耳にしていました。実際に暮らしてみると、コンロのない住居も珍しくなく、朝になれば街のあちこちに朝食店がオープンします。そんな生活に馴染んでいくうちに、コンビニに茶葉蛋がある風景も、ごく当たり前のものになっていきました。あれほど気になっていた八角の香りも、帰国する頃にはすっかり無意識のものになっていました。

ところが、日本へ戻り久しぶりに日本のコンビニへ入ったとき、今度は「あの香りがしないこと」に強い違和感を覚えたのです。最初は珍しかった風景が、いつの間にか自分の中の「日常」に上書きされていたのだと気づきました。

日本でも台湾でも、コンビニでは同じように手軽に食べ物を買うことができます。けれど、そこで出会う景色や香りは少しだけ違う。そんな日常の小さな違いを肌で感じ、自分の中の「当たり前」が変わっていくことこそが、海外で暮らす醍醐味なのだと思います。



台湾のコンビニではおなじみの「茶葉蛋」。八角などの香辛料で煮込まれています。



見慣れたコンビニの看板もありますが、周囲の風景や店の雰囲気は日本とは少し違います。



夜でも続く長い行列。

食事を求めて人が集まる光景も、台湾では日常の一部です。